

ゲスト/熊谷博子(映像ジャーナリスト、映画監督)

映像ジャーナリストとして真摯な作品群を送り出してきた熊谷博子監督は、長年にわたり原爆に関する取材をされてきました。被爆80年の節目にあたって『幻の全原爆フィルム日本人の手へ 悲劇の瞬間と37年目の対面』(1982)上映とアフタートークを開催し、被爆者たちから託されたメッセージについて語っていただきます。

2025年7月12日(土)14:00～

『幻の全原爆フィルム日本人の手へ 悲劇の瞬間と37年目の対面』上映と熊谷博子監督のアフタートーク(約45分)

鑑賞料/大人380円、シニア(65歳以上)180円、25歳以下無料



プロフィール/熊谷博子(映像ジャーナリスト、映画監督)

東京都出身。1975年よりテレビ制作会社のディレクターとして社会問題についてのドキュメンタリーを多数制作し、85年以降はフリーの映像ジャーナリストとして活動。『三池 終わらない炭鉱(やま)の物語』(2005)や『三池を抱きしめる女たち』(2013)などで受賞。『作兵衛さんと日本を掘る』(2018)『かづ彥的』(2024)は、キネマ旬報文化映画ベスト10に入賞。

原爆に関するドキュメンタリーとして『幻の全原爆フィルム日本人の手へ 悲劇の瞬間と37年目の対面』(1982)、『ぼくらの遊び場は原爆ドームだった はだしのゲン ヒロシマからアメリカへ』(1995)、『原爆にさわる 被爆をつなぐ ～長崎・戦後70年を生きる被爆二世』(2015)などを手がけている。

ドキュメンタリー上映

7/12(土) ①10:30～ ②14:00～ ③18:00～

鑑賞料/大人380円、シニア(65歳以上)180円、25歳以下無料

幻の全原爆フィルム日本人の手へ 悲劇の瞬間と37年目の対面

1982(昭和57)年 日本映像記録センター 72分 カラー Blu-ray

監督/熊谷博子

1980年代初頭の市民運動「10フィート運動」によって米国から買い戻された原爆投下直後の記録フィルムをもとに構成されたドキュメンタリー。写っていた広島と長崎の被爆者たちを探し出し、37年を経たの回想や戦後の人生について取材した。医師、二重被爆者、朝鮮人被爆者、原爆孤老、胎内被爆による原爆小頭症など、証言は多岐に渡る。

(作品提供/日本映像記録センター 協力/オフィス熊谷)



米戦略爆撃調査団撮影フィルム 吉川清さん 広島

※この作品には、原爆による死傷者および外傷やケロイド傷痕などの映像が多数含まれます。

14:00～の回上映後、監督によるディレクターズ・トークがあります。(約45分)



裏面に7/2『平和記念都市ひろしま』上映&トークと、7/5朗読イベント『連鎖反応 ヒロシマユモレスク』の案内があります。

広島市映像文化ライブラリー

広島市中区基町3-1 ☎082-223-3525 FAX082-228-0312

■開館時間:火～土曜日 午前10時～午後8時(日曜日、祝日、8月6日は午後5時まで) ■休館日:月曜日(祝日は開館)、祝日の振替日、臨時休館(令和7年10月1日～)

